

土井たか子さん残した資料 母校の京都女子大に寄贈



土井たか子さんの資料を京都女子大に寄贈した元秘書の五島昌子さん=東京都内

憲政史上初めて女性で衆院議長に就任し、初の女性党首にもなった故・土井たか子さんが残した資料が、出身校である京都女子大（京都市）に寄贈されることになった。36年にわたる衆院議員在任中、ライフワークだった護憲をはじめ、男女差別の解消や野党首脳としての独自外交に力を尽くした土井さん。資料は長年土井さんを支えた元秘書の五島昌子さん（86）が自宅などに保管していた。資料は写真やアルバムに加え、日々の会議や出来事を記した手帳やノート、備忘録など23箱分に上る。6月に京女大に運び込まれ、研究者が整理を始めている。関係者は「第一級の歴史資料になる」と話しており、今後、同大を拠点に進められる研究にも期待がかかる。（神戸新聞社東京支社編集部長 小西博美）



女性初の衆院議長土井さん 資料引受先を探して10年

「資料を引き取ってもらえると聞いた時には、目の前の曇りが晴れたようだった。まだ、女性の解放だの何だのって進んでいる途中なのに、土井さんのことに関心を持ってくれないのは寂しいと思っていた」。秘書として土井さんに長年連れ添っ

た五島さんは、そう振り返ってほほ笑んだ。

土井さんは1928年に神戸市林田区（現・長田区）で内科の開業医の次女として生まれた。3歳の時に満州事変が起きるなど、戦争の足音が聞こえ始めた頃だった。京都市女子専門学校（現京都市女子大）を経て、

同志社大法学部を卒業し、同大大学院法学研究科修士課程を修了。憲法学者として同志社大で講師を務めていたが、69年に当時の成田知巳社会党委員長の勧めで、社会党から立候補し、まだ女性がほとんどいなかった政治の道に飛び込んだ。その後、兵庫県芦屋市、西宮市などを地盤に12回連続で当選。2005年9月の郵政選挙で落

選し、引退した。その間、土井さんを支えてきたのが五島さんだった。

資料は土井さんが議員を引退した時に、当時の議員会館から持ち帰ったもの



国会で質問に立つ土井さん（五島さん提供）

だ。「1日で出てくれと言われてたので、何もかも段ボールに詰めてね」と五島さん。当初は土井さんが住んでいた家や、アジア人権基金の事務所などに置いていたが、後に五島さんの家や知人の家などに移した。その後、引き取り先を探したが、10年間も見つからなかった。

五島さんは「女性で最初に議長になった人だし、これから女性議員がどんどん増えてくるでしょうから取っておいてほしい」と、国会や国会図書館にも頼んだが、既に資料でいっぱいだった。卒業し、講師も務めた同志社大にも依頼したが難しかった。女性研究者グループの知人の紹介で、京女大が引き取って

れると聞いた時には、本当にうれしかったという。

それから、友人にも手伝ってもらい、段ボールの資料を読んで精査して、必要、不必要なものに分けて、また箱に詰め直した。京女大で整理しやすいように、資料の目録も作成した。こうして6月、トラックに積まれた23箱分の資料は京都へ向かった。

色紙に手帳、備忘録… 独自外交や思い出の写真も

大量の段ボールの中身は何だったのか。およそ半分を占めるのは写真



国会で質問した際に、いったん着席し一息つく土井さん（五島さん提供）



とアルバムだったという。写真で目を引くのは、スーツ姿のキューバのフィデル・カストロ国家評議会議長（当時）と握手をする土井さんを写した一枚。1995年、土井さんが衆院議長を務めている時だった。五島さんによると、カストロ議長は、「女性で社会主義者で議長も担っていると聞いたら、会いたくなかった。飛行機も給油でどこかにとまるから、日本に行ってくれ」とわざわざ立ち寄ったという。



参院選で当確者の名前にバラを付ける社会党の土井たか子委員長（右）ら=1989年7月23日、社会党本部（神戸新聞社提供）

カストロ議長といえは、いつも軍服のイメージだが、「女性に会うからと言うと、ベトナムの同士が一晚でスーツを作ってくれた」のだそうだ。「まさか、背広を着たカストロさんに会うとは思わず、私たちもびっくりした。何を聞いても口ごもらずにさっと答える印象的な方だった」と五島さん。

「鉄の女」と呼ばれた元英国首相のマーガレット・サッチャーさんと撮影した写真もあったという。時期は分からないが、土井さんと対談することになっていて、会ったら2人も赤いスーツを着ていた。土井さんは着替えを持っていない。すると、サッチャーさんが「ちょっと待ってください」と言って、上着をさっと白に着替えて出てきた。こち

らは近くから来ているし、向こうの方が先輩。五島さんが「すごい人だね。見習わなくっちゃ」と土井さんに言ったら、土井さんは「いいよ」と笑っていたという。2人にとって懐かしい思い出だったので。当時はあまり重視されていなかったかもしれないが、野党幹部としての独自外交も広く展開していたことが分かる。

このほか、「眠るまでには まだ幾マイルか 行かねばならぬ」とするロバート・フロストの詩をしたためた色紙や、若い頃に国会で質問に立つ土井さんの写真もある。

「第一級の歴史資料」ジェンダー教育研で

では、なぜ京都女子大は土井さんの資料を引き受けられることになったのだろうか。竹安栄子^{ひでこ}学長（地域社会学）によると、五島さんとも旧知の仲だった上智大の三浦まり教授から打診があったという。

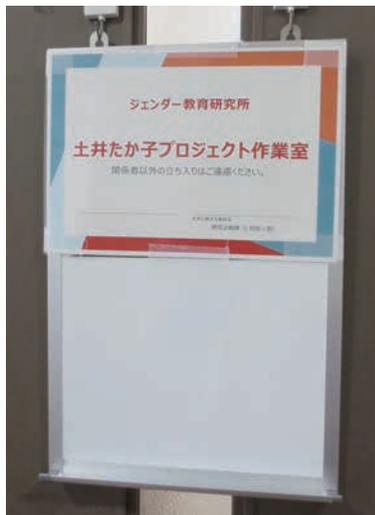
だが、竹安学長は「最初

は躊躇した」と明かす。地域政治や女性の政治参画に詳しいだけに「資料の価値は分かっていたが、同時に大変なことも分かっていた」からだという。ところが、理事長らが同席する場で「どうして引き受けないんだ」と言われ、「みなさんがそうおっしゃるなら。部屋も用意して、予算もつけてくれるなら」と、大学として引き受けることになった。受け入れ先は一昨年10月に設立した「ジェンダー教育研究所」に決まった。



土井さんの資料を受け取った京都女子大のジェンダー教育研究所が入る建物=京都市東山区

同研究所の松本浩延客員研究員（石市在住）によると、資料はアルバム・写真のほか、120冊の備忘録や、土井さんがテーマ別に記した40冊の手書きノート、1970年から2000年の議員手帳など6千点余り。議員活動の資料を中心に、土井さん自身の資料、護憲に関する市民運動の資料や講演録などがあるという。松本研究員は「土井さんは、女



土井さんの資料を整理、研究する部屋の看板



京女大で中心となって土井さんの資料整理と研究を進める松本浩延客員研究員

当面、同研究所では、松本研究員や大学院生らが資料を整理して詳細な目録を作り、来年度から研究者による勉強会をスタートできるようにしたいという。政治史とジェンダーの両面からアプローチするなど多面的に研究を進める。政治史研究が専門の松本研究員は、55年体制が終わる際の野党の役割に関する資料はあまりなく、土井さんの資料がそれを

来年度から研究開始を 今後の女性を導く手本に

あり、より重層的に土井さんの足跡を追える」とその価値を強調する。また、そのような研究拠点が関西にできる意味も大きいという。

性として初めて衆院議長を務めた。本来記録に残らないものが残っており、一次資料で『誰が何をした』だけでも第一級の資料になる」と期待を込める。「五島さんの日記も

女性議員を増やそうとする動きは無党派が中心で、政党という組織の中ではなかなか増えず、そこに日本における女性の政治進出が進まない理由があると分析する竹安学長。土井さんは政党の中で政治家としてのキャリアを積み、高く評価されるべき存在に上り詰めた。なぜそれが可能だったのか。どういった人たちが支えたのか。「それが明らかになれば今後、女性が政治の世界で活躍するため

埋めてくれるのではと期待する。一方、竹安学長が最も気にかけるのは女性の政治参画だ。スイスの「世界経済フォーラム（WEF）」が公表した2024年のジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中118位と低く、先進7カ国（G7）では最下位だ。中でも政治分野は146カ国中113位と教育や健康より低く、経済参画とともに足を引く張っている。今回の自民党総裁選には2人の女性候補が立候補し、立憲民主党の代表選にも1人の女性候補が出たが、いまだ女性首相の誕生は実現しておらず、衆院の女性国会議員比率も約1割にとどまる。



6千点余の資料に目録と説明を付ける研究者たち

の参考になる」と話す。「自分たちの先輩として土井さんを理解し、将来こういう政治家を目指すという学生が京女大に入り、一人でも二人でも育ってもらえれば」。竹安学長の願いだ。同大は秋の大学祭やホームカミングデーなどで、土井さんの展示をして卒業生にも見てもらうほか、シンポジウムも開く計画をしている。今後の研究や展開が楽しみだ。

〈参考文献〉

「やるっきゃない！」（土井たか子／吉武輝子、バド・ウィメンズ・オフィス）